

6. 入院予定患者への病棟看護師による入院前からの関わり の確立

金沢大学附属病院 飛田 敦子

【実践の概要】

入院日数が短縮され、治療や検査を受ける前日の入院が増加してきている。そのため患者は、入院当日は、基礎情報の収集、入院あるいは治療・検査のためのオリエンテーション並びにその準備が行われる。また病棟看護師は日々複数の入院患者に対し、各部署のオリエンテーション、治療や検査の準備、基礎情報からの患者の全体像の把握と看護計画の展開など実践し、患者・看護師共に入院当日は煩雑な現状にある。そのため、患者にとって入院当日の様々な状況から計画された、必要なケアが十分に提供されていない、あるいは計画が後追いになっている現状を改善する必要がある。

そこで平成20年度当院では7対1看護体制により病棟看護師が増員となったことから、病棟看護師により、入院前から予定患者に対し必要なケアを抽出し、入院時から看護が開始できる取組みを課題とした。試行病棟で実践した結果、全病棟の取組みへと拡大できる示唆を得た。

【実行計画】

1. 目標 平成21年3月までに試行病棟での取組みが定着し、全部署での取組みへと拡大する。
平成21年5月に新外来棟が開院する時点で、病棟での取組みが確立する。
2. 方法・スケジュール
 - 1) 9月に取組みワーキングを立ち上げる。
 - 2) 10月よりワーキングメンバーの部署において取り組む準備を開始する（1回/月 会開催）
 - 3) 12月 試行結果を基に、実施内容、実施方法、勤務体制、できない要因、できた要因、患者の反応など分析し、取組みの標準化を図る。
 - 4) 1月 試行は継続しながら分析結果を明確にした上で、拡大のための具体策を検討する。
 - 5) 2月 ワーキングでの取組みを報告し、全病棟に試行を拡大する。
 - 6) 3月 全病棟の取組み結果を基に、5月新外来棟開院に向け、取組みの体制を整える。

【結果及びまとめ】

1. 取組み経過

6部署でワーキングを結成し、10月より月1回の検討会をもった。取組み内容を統一することで活動しやすいと考えたが、各部署での看護の特徴や体制の違いにより統一することは困難であった。各部署の入院患者の状況、どのような準備が整っていることで入院当日から看護が開始できるかを検討し、それぞれの取組みを試行した。10月には3部署開始、12月4部署、1月5部署が開始できた。1部署は2月に方向性が決定し準備を開始できた。

取組み内容について、3月に報告会を実施した。全部署からの参加を得ることができ、取り組むまでの経緯や課題、取り組むことによる患者・看護師にとっての効果を試行ながら報告できた。全部署において患者看護を中心にすることを考え、入院前からの取組みについて検討し開始の準備を提案した。

2. 取組み内容

神経内科患者の日常生活状況を事前に把握することで入院環境を安全に整えることができた。核医学科患者には特殊治療の説明と入院中の生活制限について説明し不安軽減に到った。耳鼻咽喉科患者には基礎情報収集・看護計画を立案し、入院時には計画の説明・実施ができた。呼吸器外科患者へは手術のクリニカルパス説明と病棟案内をし、不安軽減と入院時には術前準備が整えられていた。この4部署においては病棟看護師が外来に出向き関わりを持つことができた。精神科患者は予

定入院日を設定することが難しく、入院当日に退院調整のためのアセスメントを実施し、早期から患者・家族を含め地域連携室との退院調整を進めることができた。

外来での各取組みの所要時間は1件当たり20～30分であり、看護師の病棟勤務のあり方は、機能的な役割あるいは患者受け持ちをしながら業務調整をして外来に出向くなど、各部署での工夫があった。

1 部署では、入院予定患者に対する外来業務を把握・見直しすることから始め、患者に対し外来・病棟それぞれに関わっていた現状から、今後外来看護師と役割分担しながら取組みを進める計画となった。

3. まとめ

今回取組みを開始する際、実施内容を一律に、病棟看護師が外来に出向き承諾が得られた患者の基礎情報を収集し看護計画を立てることと考えた。進める中で、各部署入院前から関わる必要があるケア内容に違いがあり、また日勤勤務中に外来に出向くため勤務調整や患者との時間調整など困難な点が出現した。よって各部署にて患者にとってどのような関わりが必要か、外来へ出向く体制はどうしたらよいかを検討し部署ごとの取組みとした。看護師の判断能力が求められる取組みもあったが、20～30分の所要時間であれば、日勤業務に支障が少ないことが共通としてあげられた。

【評価】

実行計画では、2月に全部署にて試行を拡大する予定であった。ワーキングでの試行を検討する中で、各部署での取組みに対する理解や実施方法、実施看護師の能力基準、外来との連携、病棟での業務のあり方など課題を解決していくために時間を要した。そのため実践報告会が3月となり、全部署への拡大提案ができたところまでの結果となった。しかし、今後新外来棟開設に合わせ、全部署での取組み拡大に向けて、有効な提案になったと考える。

今後の課題として、①外来勤務者との役割分担と基準作成 ②外来応援勤務者（病棟配置の日々外来勤務者）の役割の検討 ③取組み内容による看護師の能力基準（クリニカルラダー）の検討が挙げられる。